

岩坂名奈、浅野博亮ほか 勇退選手のラストメッセージ

高校新3年生 主役を探せ! 男子編

月刊バレーボール

月刊バレーボール6月号 1947年11月15日第3種郵便物認可 第75巻第6号 2021年5月14日発行(毎月15日発行・発売)

2021

6

JUNE



国際親善試合 VS. 中国
日本代表
有明に立つ

男子 高橋 藍らデビュー2連勝

女子 長岡望悠、古賀紗理那が存在感

欧州リーグも
シーズン
総決算

山元快太



対談内でも登場した山元のバックアタックは、大きなハンマーを振り下ろすかのようなダイナミックなティクバックからのスイング。体全体を使うため、ボールに体重がしっかり乗っている。
高いジャンプ力があるため、大きなスイングでスパイクが打てているが、トスによっては少し体が落ちた状態でボールをたたいてしまうことも。トレーニングを重ねて、ティクバックをコントロールする体をつくるのがさらなる成長へのカギとなる。



牧 大晃

身長210cmながら、アウトサイドヒッターとしてサーブレシーブに入る牧は、前衛でサーブレシーブをしてからスパイクを打つ場面も少なくない。上半身が安定しており、面がしっかり固定されているのがレシーブの特徴だ。腕が長いので、不動でも守備範囲は広い。
しかし、自身の巨体を動かすに股関節が硬く、お尻まわりの筋力が不十分。そのためボールの勢いを殺すのに手を使っている。下半身を鍛えれば勢いを吸収できるようになり、今以上に優しいボールが上げられるだろう。



写真で解説 主役候補たちの主役級プレー

主役を探せ!
男子編

2021年度高校男子バレーを引っ張っていくであろう、3人のプレーを写真で解説します

●解説／増村雅尚(崇城大学男子バレーボール部監督) 動作分析の観点から男子日本代表のサポートを務める
●写真／松村健人(NBP)、山田高史

畑 虎太郎

ジャンプからのティクバックに力みがなく、自然体に近い状態で軽々と跳び上がるのが畑の特徴。手の平は内側を向いた状態で、無理せず体に沿って振り上げる。ティクバックでは、手を背中側までしっかり引き、スムーズな回転でスイング。スイングの流れのまま最後に肩を内旋させることで、対談内に登場したような3枚ブロックの内側にも打ち込むことができる。

